

町長と語るタウンミーティング 議事録(概要)

日 時：令和6年1月28日(日) 19:00~20:10

場 所：いなみ文化の森ふれあい交流館 ホール(2階)

テーマ：まちのにぎわいづくり

参加者：11人(うち、子ども1人 ※ 幼児なし)

【司会】

本日は、第3回目の町長と語るタウンミーティングです。テーマは「まちのにぎわいづくり」。にぎわいづくりに関しては、イベントなどを通じてのにぎわいづくりや、公共施設や教育、福祉の充実などのまちの魅力づくりを通じての稲美町への流入人口増加によるにぎわいの創出など、様々な切り口がある。本日は、切り口にこだわらず町長と皆さんとの間で活発な意見交換ができればと考えている。

【町長】

今回でタウンミーティングは3回目の実施となる。皆さんの参加しやすい時間やテーマに合わせて、日時をいろいろと変えながら実施している。本日もぎっくばらんにお話をさせていただくような会になればいいと思っている。

今回は、まちのにぎわいづくりをテーマとさせていただいた。今まで、稲美町には大きなイベントが3つあった。5月のふれあいまつり、8月の大池まつり、1月2日の稲美新春万葉マラソン大会。ただ、コロナ禍を経て、多くの人が集まるイベント運営方法を変えさせていただいた。にぎわい創出事業補助事業については、一日限りでたくさんの方が集まるというやり方ではなく、一年を通じて毎月町内のどこかでイベントに人が集まり、にぎやかに交流ができるというやり方が今の時代に合っているのではないかとということで、令和5年度からこのようなやり方で実施させていただいたが、驚くほどたくさんの方々のイベントを実施いただけた。近年は人と人の交流が減ってきていると言われているが、本当にたくさんの方々に自分たちでイベント作りをやってみようという取り組みをいただいた。

公共施設の利用の仕方についても、行政が行うイベントでは考えられないような内容のイベントも実施していただいた。例えば、いきがい創造センターの2階ホールで実施された「絵の具で遊ぼう」というイベントでは、床にブルーシート、壁には養生シートを張り、子どもたちが絵の具で思うままに遊び放題していいというイベントが開

催された。行政の発想としては、施設が汚れてしまったらどうするのかというような考えが先に出てしまい、実施することが難しい内容のイベント。ただ、このイベントを開催するには、屋内で、かつ、ある程度の広さが必要なため、主催者は施設が汚れないように対応するので、何とか施設を貸してもらいたいということであった。このように、イベントのあり方ややり方、公共施設の使い方や考え方などを変えていけば、これまでできなかったようなイベントも開催できるようになる。屋外でのイベントについても、町内の公園内にキッチンカーが店を出している姿はこれまで見たことがなかったが、そのようなこともできるようになってきた。

加古大池公園についても、公園内で物を販売できないという制約があるが、イベントを実施する時に限り、自由に使っていいという形にすることができるのであれば、公園の使い方やあり方も変わって来ると考えている。行政の考え方も積極的に変えていく必要があるし、皆さんからのいろんなことをやってみたいというご意見も取り入れていければいいなと考えている。

ただ、やり方を変えていく中で、問題も見えてきた。これまでは町が大きなイベントを開催し、そこに町内の各種団体が参加することで自分たちの事業目的が達成される団体もあった。例えば、高齢者の皆さんのグループでいうと、町がふれあいまつりを開催した際にそこに参加し、啓発活動や子ども遊びなどの体験活動をされていたが、ふれあいまつりが開催されなくなってしまうと、活動の成果を発表する場がなくなってしまった。

令和5年度のにぎわい創出補助事業について、思っていることがあればお伺いしたい。

【参加者】

先ほど、町長がイベントについてお話されたが、私は伝統というものも大切であると考えている。ふれあいまつりについては、実行委員会の皆さんが、一生懸命、皆と協力しながら手作りで開催してきた。町には開催の音頭を取っていただき、実施する際の費用面での支援をいただいていた。新春万葉マラソンについては、遠方からも参加があり、楽しみにされている人がいた。花火大会については、コロナの時は他市町でも開催を遠慮されていたが、今では他市町では実施しておられる。各種団体も、皆さんに来ていただくために一生懸命準備をされ、お店を出してきた。私は、長く続けることによりはじめて伝統になると考えている。まちづくりにとって一番大事なこと

は伝統づくりだと思う。なぜ、こうしたイベントをやめてしまったのかと
思っている。実行委員会の皆さんにご相談をされ、皆さんの意見を聞いた
中で判断されたのであればいいが、皆さんの意見を聞いていないように
感じている。人と人とのコミュニケーションは、絶対に大事なことであり、
このコミュニケーションによって、災害時の被害縮小にもつながってく
ると思っている。コミュニケーションを大事にするのであれば、今までや
ってきたまつりについても、もう一度考えていただき、皆さんのご意見
を聞いたうえで判断してもらいたい。もっとにぎわいをつくるのであれば、
今までやってきた伝統あるイベントは、もう一度復活すべきだと思う。ま
た、町民運動会は長い間実施されていないが、開催していた当時は、自
治会の皆さんは非常に苦労しながら選手集めをされていた。しかしなが
ら、その苦労についても、イベントが終わったときには喜びの方が勝
ると感じている。

真剣に考えていただき、町長が考えているような住民の皆さんがイ
ベントを実施するやり方のほうがいいということであれば、それもいい
が、私の聞くところでは、新しいやり方で実施するいろいろなイベント
については、あまり良い意見は聞いていない。

【町長】

稲美町のこれまでのやり方も本当に大切だと思っているが、今はやり
方を少し変え、試行的に実施している。例えば、今年度の花火はサプ
ライズで実施しているので、花火の音に気が付いた矢先に終わってしま
ったとか、花火があることを知らなかったという声も聞いている。子
どもたちに大きな花火を見せてあげたいとは思っているが、夜間の水
辺でのイベントであることや、会場周辺での大渋滞の発生など、いろ
いろなリスクを負いながらこれまでも実施してきたので、違った実施
方法もあるだろうと考えている。加古川市では、日時をお伝えしなが
ら、人が一か所に集中しないよう分散型で実施する方法を取っている。
実行委員についても、充て職でやっている実行委員ではなく、自分
たちで花火を上げたいという方々がいらっしゃるのであれば、そう
いう方々に実行委員になっていただき、町は裏方としてフォローする
という方法もあると思う。花火大会についても、ぜひ復活をさせたい
と思っているので、お力添えをいただきたい。

新しいやり方でにぎわい創出事業を実施してみると、多方面からあ
んなことやこんなことをやりたいというご意見をたくさんいただいた。
やってみたいという意見が出

てこないのであれば、町が音頭を取ってふれあいまつりなどを実施すればよいが、いろいろとアイデアが出てくるのであれば、任せられる部分は任せてもいいのではないかと考えている。にぎわい創出補助事業には、多くの申請をいただいているので、これは続ける意味があると思っている。

【参加者】

私のにぎわいのあるまちづくりと聞いて考えるのは、中学校の35人学級と小中学校の給食費の無償化について。35人学級を中学校でも実施する、あるいは、小中学校の給食費を無償化することで、若い世代の人たちが、稲美町は子どもを持つ家庭の負担を減らし、子育て世代に寄り添っている、子どもたちの学びを大切にしている、教師の数を増やして一人ひとりの子どもを大切にしているんだと思うのではないか。若い世代の方々や子どもを持つ方々が稲美町に転入してくることで、にぎやかなまちづくりに繋がっていくと考えている。近隣市町では、中学校で35人学級を実施しているところはないし、小中学校の給食の無償化を完全にやっているところはない。ぜひ検討いただきたい。

【町長】

年長者から、子どものためにお金を使ってはどうかと言っていただけは本当は嬉しく思う。行政としては、すべての世代に対して様々な事業を実施していかなければいけないが、子育て世代を対象とした事業は、最も重要なもののひとつだと考えている。子育て支援にも様々なあるが、35人学級は、国や県で検討を進めているところであり、中学校についての方針は示されていない。中学校は、教科型で実施しており、習熟度が深まるように少人数学級なども取り入れているので、どちらを選択するかといったところで、効果について検討されているところ。給食費の無償化に関しては、町がやると決めれば実現できる事業ではあるが、効果も含めて慎重に検討していかなければならないことだと思っている。

【参加者】

子どもに予算を割いてはどうかという話は、私もすごく嬉しく感じた。私は、子どもに手当をすることによって、若い人が転入してこられたら、結果的に高齢者も潤うと思っている。先ほど、町民運動会のお話があったが、おそらく私の集落で運動会の

参加者を集めたとしても、参加される人はご高齢の方ばかりだと思う。子どもの施策を手厚くすることで、町外からの転入者が増え、同時に、運動会に参加する人も増えれば、伝統も守られる。まず最初にやることは、子どもの施策。子どもに投資することで、結果的には高齢者にも潤いが回ってくる。子どもへの予算を大きく付ける稲美町というところをアピールしてはどうか。

私は、小中学校の体育館の空調設備の導入を要望させていただいている。いろいろな種類の冷暖房設備があるが、スポットクーラーは安価だが音がうるさくて使いにくく、結局は安かろう悪かろうで終わっている学校が全国にはたくさんある。東京都の町田市ではエアコンとパネルヒーターのハイブリッド方式で設置している。費用的にも稲美町の歳入を考えると無理ではないと思うし、効果はあるので町長に決断していただきたい。明石市は、子育て施策に大量に予算をつぎ込み、住民が増え、高齢者も潤っている。そういったところをたくさんご覧になって真似ていただきたい。

【町長】

国の方針もあり、小中学校の教室にはエアコンが付いた。体育館については、小中学校の他、いなみ野体育センターもある。どこから手を付けていくのか、どんな方式で実施するのかということを、効果や費用についても調べながら町として検討している。

【参加者】

稲美町では、昔からの催しとして祭りが長く続いている。祭りについては、自分達で資金調達をしながら実施するにしても、町として祭りを側面から応援していただけたらいいなと思っている。例えば、天満神社の秋祭りに合わせて、JAの収穫祭を実施したり、町の産物をPRしたりしてはどうか。私は、イベントをやるからにはある程度の収益が発生しないと続かないと思っている。祭りそのものは何百年もやっているのに、役割分担も決まっておらず、そのノウハウは蓄積されている。京都府の祇園祭では、まちが潤っている。稲美町の祭りでも、町内の小売店が潤うように仕掛けていってはどうか。

【町長】

稲美町では、神社などで秋祭りや伝統行事が開催されている。地域の大切な宝物で

あり、稲美町のPRポイントのひとつ。行政が宗教的な内容に対して直接的な支援はできないが、にぎわい創出補助事業のひとつに、一緒になって神社や祭りを盛り上げていくすごくいい取組があった。ちょうど、イベントを主催された方がこの会場に来られているので、その内容を紹介していただきたい。

【参加者】

昨年、11月23日の勤労感謝の日に「収穫祭」としてイベントを天満神社で開催させていただいた。先輩方の話を聞いていると、昔は子どもたちは神社に集まって遊んでいたとお伺いした。災害等が起こったときには、学校や神社が避難所になっていたというお話も伺った。神社は、祭りのときは賑やかだが、普段は神社から人が離れていると感じたので、このイベントをきっかけとして、少しでも神社にふれることができればいいと考え、天満神社で開催させていただいた。また、神社には伝統が詰まっている。例えば、食べ物に関する昔からの習わしや意味合いを子どもたちに伝えながら、しかも、それが楽しいイベントになればと思った。新しいことをしたいと思う一方で、いろいろな先輩方の経験の積み重ねがあって伝統になっているのであり、そうした伝統を教えていただきたいとも思っている。この度実施したイベントのコンセプトは、いろんな世代が繋がる場ができればいいということだった。それぞれの世代で取り組まれていたことが、コロナによって人と人が関わる機会が減ってしまった。やはり、各世代が繋がる場が必要なのかなと感じており、それが神社とか、食育とか、そういうものを通じて、いろんな世代が繋がることができればと思った。稲美町では、皆さんそれぞれにすごいエネルギーにいろんな取組をされているので、繋がっていくというのが本当に大事なのかなと考えている。今後も、繋がるということを見据えながら取り組んでいきたい。

最近、子どもには、失敗しろとよく言っている。失敗から学ぶことはすごくたくさんある。初めから答えがわかっていると、なぜ上手くいったのかがわからなくなる。失敗体験は何よりも糧になると思っているので、伝統も守りつつ、失敗も重ねていきたい。いろんな体験が人には必要なのかなと思っている。

【町長】

11月23日は、天満神社の本殿の中では新嘗祭の神事を執り行っていた。昨年までは本殿で神事のみ実施しており、当日の神社の外は秋祭りのように賑やかに出店等は出

ていなかった。そこに、マルシェ*を組み合わせ、稲美町で採れた新米や野菜等を販売したり、食べていただいたりするコーナーがあった。当日はにぎやかな子どもの声が聞こえてきて、総代さんの中からは、これもいいよねという声も出ていた。神社を通して地域の人が繋がっていたし、氏子とは関係のない方々が繋がり、来年もしようということになっていたのではないか。新しい伝統につながっていくのではないかと思っている。

【参加者】

私も行きたかったが、駐車場がないということで行けなかった。

【参加者】

その点については、課題の一つだった。

【参加者】

10月の秋祭りの際も、家族が獅子舞で出るため天満神社に行ったが、やはり駐車場がないというのがネックだった。駐車場の問題は大事だなと感じた。

【町長】

昨年1年間、いろいろなイベントを実施いただく中で、駐車場問題はたくさんお聞きした。主催者からも駐車場が少ないというご意見をいただいております、複数のイベントが重複してしまうと、駐車場が混んでしまうという話がたくさん出た。駐車場を増やしていかないといけないなどは感じている。

【参加者】

私は、稲美町でスケートボードを広める活動をしている。まちづくり活動サポート補助金を活用させていただき、加古大池でイベントを行った。その中で、駐車場の問題に関しては、警備も自分たちですていかないといけないという課題があった。1回目の実施の際は、同時にマルシェを開催したこともあり想定以上の集客があった。1回目

マルシェ*…「市場」を意味するフランス語。個人店や生産者が出店することが多く、食品やハンドメイド雑貨などが販売されています。生産者が直接商品を販売することができるため、商品にかける思いやこだわりやを消費者に伝えやすいことも特徴の一つです。

は、まちづくり活動サポート補助金、2回目はにぎわい創出事業補助金を活用して開催させていただいたが、駐車場の警備の部分をプロにお願いしようとしたら相当な金額になるため、警備の部分でも課題が出てきた。万が一事故でも起きてしまったら、イベントを実施している場合ではなくなってしまう。私たちは新しいことに取り組んでいる団体であり、そうした取組を地域の中でアピールできる場が、にぎわい創出補助事業で作ることができた。本来なら、自分たちだけでそういった活動ができればいいのだが、町内の公園ではスケートボードは禁止されているし、そもそもスケートボードを練習する場所がないという課題もある。唯一のアピールの場として、補助事業を活用させていただいた。実際にはイベントは赤字となったが、これはチャンス。私たちは子育て世代・働いている世代で集まっており、団体としても2年目で経験が浅いので、運営には相当な体力がいる。3月にもイベントを計画していたが、活動を続けていくには皆の協力ができない。

私たちがにぎわいのまちづくりとして実施しているような新しいことを、最終的には、伝統という風呂敷で一つにまとめるような町内のイベントがあればと思っている。

【参加者】

収穫祭は黒字になったのか。

【参加者】

収穫祭は、持ち出しが必要となり赤字だった。

【町長】

イベント補助金といっても、上限は20万円。町が主催しているイベントであれば、ふれあいまつりは1,000万円の経費がかかっていたが、にぎわい創出補助事業については、どれくらいの規模のイベントを想定しての補助金かというところにも課題はある。大規模なイベントを実施するのであれば20万円の補助金では足りない場合もある。今、お話いただいたように、一つ一つできたものを、もう一度一つの風呂敷にまとめて実施するというのは良いアイデアだと思う。このスペースの運営はあなたに、あちらのスペースの運営はあなたにお願いしますと分けていき、ガードマンに係る経費は全部町が負担するなど、もう一度、町が取りまとめをするという形は良いと思

う。イベントに携わるというやりがいはなくすことなく関わっていただきながら、スムーズに運営ができるような仕組みを作っていく必要があると思っている。そうした仕組みができれば、もう一度、ふれあいまつりのような大きなイベントの形で復活をするということも考えてもいいのかなと思っている。

イベント開催においては、費用面だけではなく、人手の面での苦勞もあったと思う。今まで町がやっていたイベントについても、町が全てをやっていたわけではない。実行委員会でやっていただいたり、地域の人にご協力いただいたりしている。現状においても、地域や校区にお願いをしているものがあるが、それらを継続していくうえではマンパワーの部分で負担を感じておられるところもあると思う。若い人がたくさんいるときは良かったが、世代交代がうまくいかず、ずっと同じ人たちがやっているととなると、続けていくうえではしんどい部分も出てくると思う。簡単に解決できるものではないと考えており、私たちが悩んでいるところ。続けていくことの難しさがあると思うが、どうか。

【参加者】

私は、稲美町に引っ越してきて、たまたまご縁があつて天満神社の祭りの十六人型をやらせていただいて、いきなり天満大池に飛びこまされた。その打ち上げの席で書類に名前を書かされ、消防団に入らされ、花火大会などに毎回借り出された。イベントの警備や駐車場整理をしていたが、ちょっと距離を置かないとしんどくなってしまう、こんなことをするためにこのまちに住んでるんじゃないと感じだした。稲美町は景色が良く、文化の森も何となく感じがいいしと思って引越してきたのに、どっぷりと漬からされるしんどさを味わった。

今は、校区まちづくりの会に関わっている。昨年、小学校で映画会を開催したが、充て職の人がたくさんいらっしやっただけで運営はできた。ただ集まった人を見ると、結果的には借り出された人が多くおられ、これはしんどい思いをさせているのかなとかいう話も出た。充て職で来られた人が、しんどかったけどこの一年楽しかったなと思ってもらえたら一番いいなと強く思っている。私たちは、できるだけライトに運営会議をやっているが、どうしてもお金の話などでは重たい雰囲気になってしまう。校区まちづくりの会に関して言うと、5校区に均等に補助金が出ているが、校区の住民の数に関係なくみんな一緒の金額なのかといった話も出る。幼いお子さん連れのお母さんもいらっしやる会議の中で、「それはおかしいじゃないか」「今年はもう祭りはで

きないんじゃないか」みたいなことを言い始めてしまうこともあり、そう言わず楽しくやりましょうと促している。

先程から話が出ているが、充て職で来られている人もやってみたら良かったと感じる部分もあるはずで、「伝統」の大切さもわかる。そうした人たちと、新しいことに取り組もうとしている人たちとの繋がり、もうちょっとのところまできていると思っている。若干のミスマッチがあって、そこがもう少しうまくかみ合えば、きっといまちになるのになと感じている。もうちょっとだけど、そのもうちょっとがすごく難しい。いろんなことをやるのはいいけれども、何となくみんなが公平だって思えるようなことをやっていただけるといいなと思っている。

話は変わるが、稲美町に住もうかとなる決め手は、交通の便だと思っている。バスについても、今の倍の便数があったら住民は結構増えると思う。23時20分の最終バスがなくなってしまったが、タクシーも土山駅に全然いない。町民が楽しめるということもとても大事で、町外から観光客などのお客さんを呼んで来てお金を落としてもらうというのには無理があるのかなと思っている。その気になれば神戸や大阪まで通勤・通学できるが、そのためのインフラを整えるともっとにぎわうと思う。イベントの部分については、難しい問題もいろいろとあるが、みんな一生懸命取り組んでいるので、良くなっていくのではないかなと思っている。

【町長】

最終的には、人口というところに尽きると思う。これは日本全体の問題で、即座に解決のできる問題ではないが、稲美町としては、もちろん人口が増えることは嬉しいが、町に住んでいる皆さんが気持ちよく楽しく生活ができたり、交流ができたりというのが一番だと思う。一方で、今まではできていたことができなくなっているのは確かだ。校区まちづくりの会もそうだし、交通の問題もそう。先日もタクシー事業者の方とお話したが、従業員の確保が難しいということだった。稲美町らしいやり方のまちづくりや、交流の仕方があり、今がちょうどその転換期だと思っている。

昨日、テレビで学校の問題を取り上げていた。今の学校のスタイルに合わせるのが難しいという子どもたちが増えているという事実があるが、例えば、障がいのある子どもや、学校に馴染めない子どもの支援はどんどん手厚くなっているが、それにより、支援するための人手や、支援のための予算が増えることになる。根本的なところを解決していかないと、いろんなところに人手や予算が分散してしまい、解決してい

かないという話だった。国も自治体も含め、あり方を変えていく必要があるということだと思う。

今、令和6年度の予算を編成している。来年度、こういうところで手厚くしてくれたんだなということが目に見えるような予算を編成しているところ。また、お知らせさせていただく。

【参加者】

私は、稲美町に引っ越してきて30年になる。その間、コスモレディや体育指導員もやってきた。ただ、64歳になった今、「何かできるよね」と話していたら、タウンミーティングのことを教えてくださる人がおり、今日は来させていただいた。先程の話にあった駐車場係についても、稲美町に住んでいる60代の人で、やりたいって人はいらっしやると思うが、本当に申し訳ないが、私は今まで広報を見たことがなかった。だが、今月の広報と一緒に配布されたものに、シニアの方がボランティアをやっているという記事が出ていたのを見て、60～70代の元気な方はエネルギーが余っていると感じている。私はコロナ前の10年間、毎年オーストラリアに行っていたが、オーストラリアと日本と何が違うのかなと考えたとき、人の繋がりが違うと感じた。オーストラリアで私が困っていると、おばあちゃんが助けてくれたが、おばあちゃんにありがとうございますって言ったら、おばあちゃんは「私はね、人の役に立てることがもう少ない。何かすることで人の役に立つことが私の喜びなんだ」と言われたことに感動した。

私は、町ではどんな行事があるのかを知らなかったが、行事のことを知っていたら、先程、話にあった駐車場係とかにも行っていたと思う。やったことのない人にはわからないかもしれないが、やった後の達成感にはすごく大きなエネルギーをもらえる。今は、達成感の喜びをわかる心を持っている人が少なくなっているのかなと感じている。何ができるかはわからないが、若い人をサポートできるようなことが何かあれば、今年からお手伝いしようかなと思っている。

【町長】

本当にそういったお力添えに期待をしている。若い方々で、夢を持って活動されている人がたくさんおられるが、1人で頑張り過ぎている部分もあると思うので、皆さんに余裕があれば、ぜひ助けていただきたいなと思っている。また、子育て支援につい

て、高齢者の皆さんができることはたくさんあると思うが、先程、パワーをいただくというお話もあったように、高齢者の皆さんがお子さんからパワーもいただけると思う。

【参加者】

私は、子育てを応援する活動をしており、近所の公会堂で子育て広場を開催している。高齢者の皆さんのつどいの場の横で赤ちゃんが集まる機会をつくったり、私たちの活動ではないが、若いお母さんたちがこども食堂的なことをやっていたりする。子どもだけではなく、いろんな人たちが集まってご飯を食べたりしているので、いろんな交流の場ができています。

高齢者のサークル活動などは、公会堂のような自治会単位で集まる場所はいろいろとあるが、子どもたちが行ける場所にはなっていない。私たちのような地域の50代、60代のおばちゃんたちが頑張ることで、だんだんと下の世代との繋がりもできていくのではないかなと思っている。

私も町外から稲美町に人を呼ぶことにはあまり興味がなくて、町中にいる人たちや子どもたちが、いろんな人と関わることができたらいいなと活動している。私は、地域の人たちが帰ってこれるような何かができたらいいなと思っている。

【町長】

世代間を繋ぐ役割を担っていただいている。今は、SNSや広報があるので、情報を見つけていただき、自分ができるなと思うときには、ぜひお手伝い、応援をしていただけたら嬉しい。

稲美町の子育てに関する取組や高齢者との繋がりを町外の人が見ることによって、稲美町ではこんな風に多世代が繋がり、にぎわっているんだなと思い、そういったところを気に入って稲美町で暮らしてみたいと思われる人もいるだろうし、子ども政策がすごく充実しているから稲美町で子育てしたいと思って転入して来られる人もいます。

【参加者】

先程、イベントをするときにガードマンがいらないということと言われていたが、そういう問題を町が接着剤の役割となって、例えば、交通安全協会などがあるので、そ

ういうところをお願いをして、有償分は町が負担などする形で進めていけば、若い人と年配の人とのコラボレーションができ、また、交流ができると思う。住民任せではなく、町が接着剤としてイベントの主催者と協力団体などとの間を取り持っていていただければ、方向性は全然変わってくると思う。

また、アウトソーシングのことについてだが、町内にあるNPO法人にアウトソーシングするのがいいのか、それとも、町外にあるNPO法人にアウトソーシングするのがいいのか、その辺の考え方については、私はいろんな面で町内のNPO法人にやってもらうのが一番良いと思っている。ただ、プールについては、町外の法人にアウトソーシングして成功しているが。水辺の里公園などは、町内のNPO法人が入っていることで、とてもにぎわっている。その他、加古大池などいろいろな施設をアウトソーシングしているが、町内業者と町外業者との検証をすべきだろうと思っている。

【町長】

言われるように、費用だけでは計れない部分があると思っている。

【司会】

まだ話し足りないというところもあろうかと思うが、時間となったので終了とさせていただきます。

本日、入口でお渡しさせていただいたアンケートについては、可能な範囲でご協力をお願いします。